

平成15年度司法試験第二次試験結果について〔公表済み〕

～出願者数は過去最高、初の5万人突破～

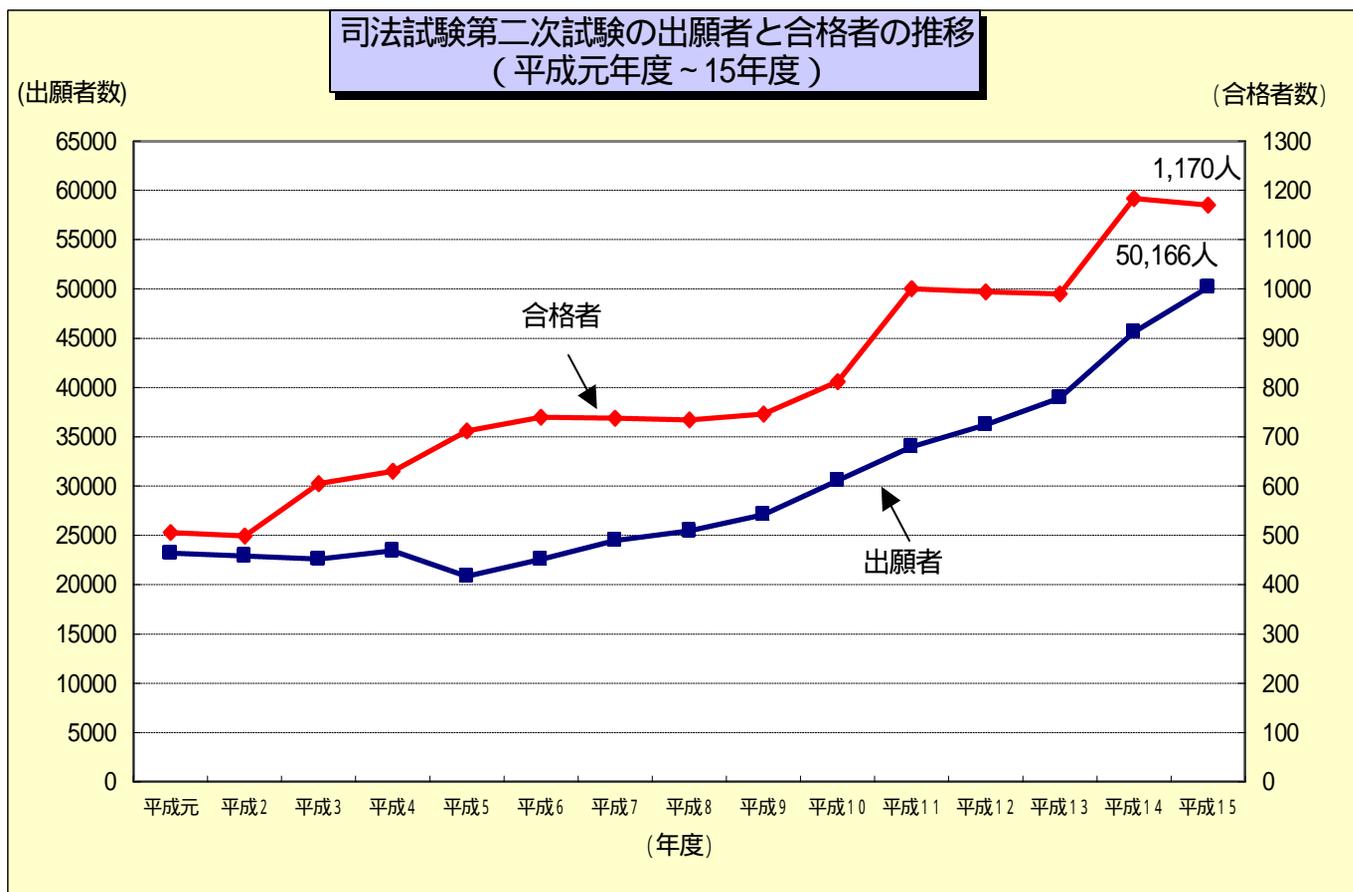
本年11月12日に、本年度の司法試験の最終合格者1,170人が発表されました（昨年度最終合格者は1,183人）。司法制度改革審議会意見において、「平成14（2002）年の司法試験合格者数を1,200人程度とするなど、現行司法試験合格者数の増加に直ちに着手すること」が提言されたことを踏まえ、司法試験管理委員会は、同13年11月9日、「平成14年度以降の司法試験について、司法制度改革審議会意見を最大限尊重する」ことを決定し、昨年度に引き続き本年度の最終合格者の決定にあたっては、同意見の内容に沿った措置が講じられました。

また、出願者数は、50,166人となり、初めて5万人を超え、昨年度を約4,500人上回り、率にして10.0%の増加となりました。受験者数も、過去最高の45,372人で、昨年度を約3,900人上回り、率にして9.4%の増加となりました。

増加の要因は、論文式試験の合格者を合格枠制により決定する方法が、本年度をもって廃止になることから、受験期間3年以内の受験者が増加したことなどにあると考えられます。

1 第二次試験出願者数・合格者数等

区分 年度	出願者数	受験者数	合格者数	合格率(%)		短答式試験 合格者数	論文式試験 合格者数
				対出願者	対受験者		
平成15年度	50,166	45,372	1,170	2.33	2.58	6,986	1,201
(昨年度)	(45,622)	(41,459)	(1,183)	(2.59)	(2.85)	(6,457)	(1,244)

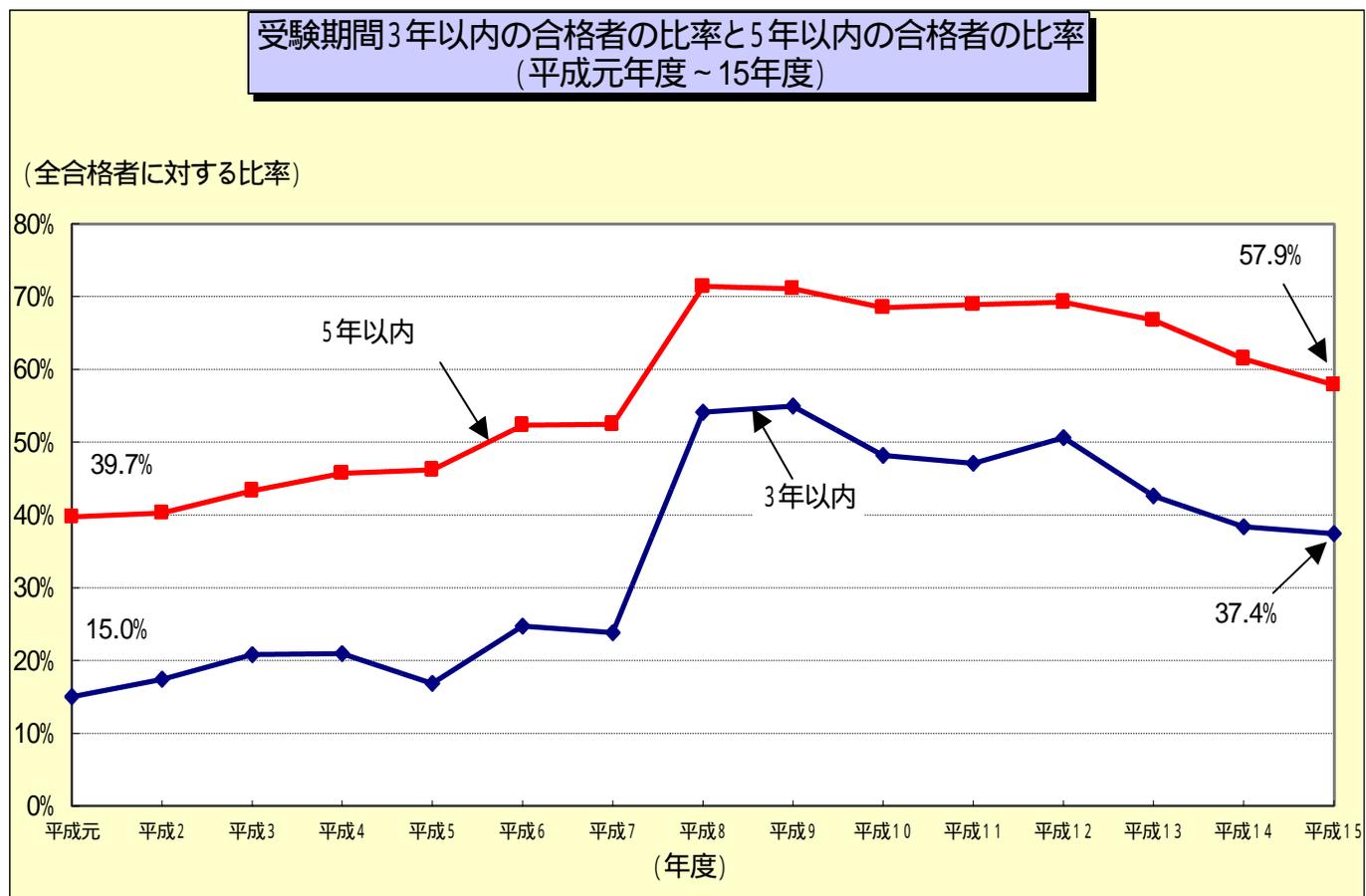


2 合格者の受験期間別分布状況等

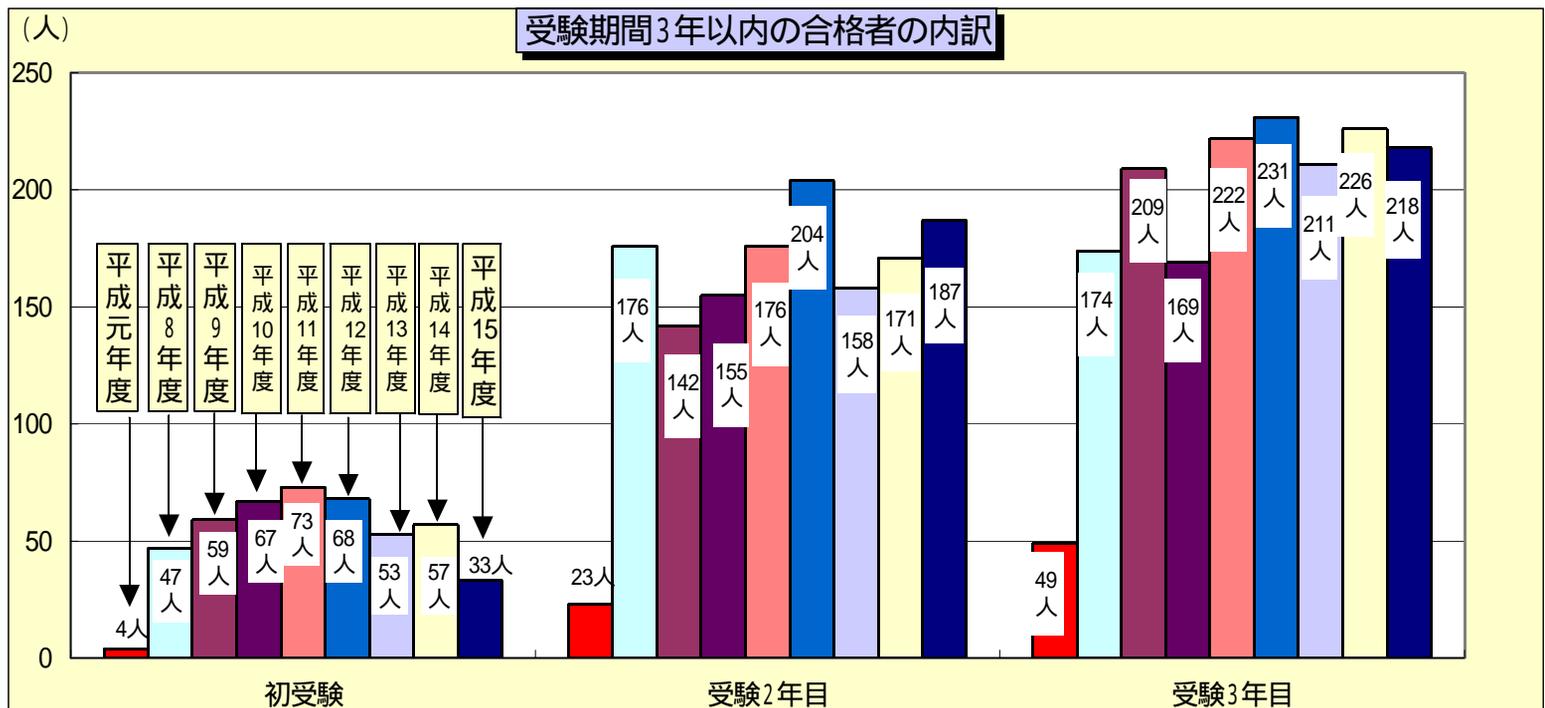
(1) 受験開始から **3年以内**、**5年以内**の短期間受験での合格者の割合は、次のとおりです。

合格枠制が実施された平成8年度以降で見ると、ほぼ横ばいの状態が続いていましたが、平成13年度から減少傾向にあり、本年度の3年以内合格者は30%台後半となっています。

区分 年度	受験開始 3年以内			受験開始 5年以内		
	合格者数	構成比	元年度比	合格者数	構成比	元年度比
平成15年度	438	37.4%	5.8倍	677	57.9%	3.4倍
平成14年度	454	38.4%	6.0倍	727	61.5%	3.6倍
平成13年度	422	42.6%	5.6倍	661	66.8%	3.3倍
平成12年度	503	50.6%	6.6倍	688	69.2%	3.4倍
平成11年度	471	47.1%	6.2倍	689	68.9%	3.4倍
平成10年度	391	48.2%	5.1倍	556	68.5%	2.8倍
平成9年度	410	55.0%	5.4倍	530	71.0%	2.6倍
平成8年度	397	54.1%	5.2倍	524	71.4%	2.6倍
平成元年度	76	15.0%	-	201	39.7%	-



区分 年度	初受験での合格者		受験2年目での合格者		受験3年目での合格者	
	合格者数	構成比	合格者数	構成比	合格者数	構成比
平成15年度	33 (元年度比8.3倍)	2.8%	187 (元年度比8.1倍)	16.0%	218 (元年度比4.4倍)	18.6%
平成14年度	57	4.8%	171	14.5%	226	19.1%
平成13年度	53	5.4%	158	16.0%	211	21.3%
平成12年度	68	6.8%	204	20.5%	231	23.2%
平成11年度	73	7.3%	176	17.6%	222	22.2%
平成10年度	67	8.3%	155	19.1%	169	20.8%
平成9年度	59	7.9%	142	19.0%	209	28.0%
平成8年度	47	6.4%	176	24.0%	174	23.7%
平成元年度	4	0.8%	23	4.5%	49	9.7%



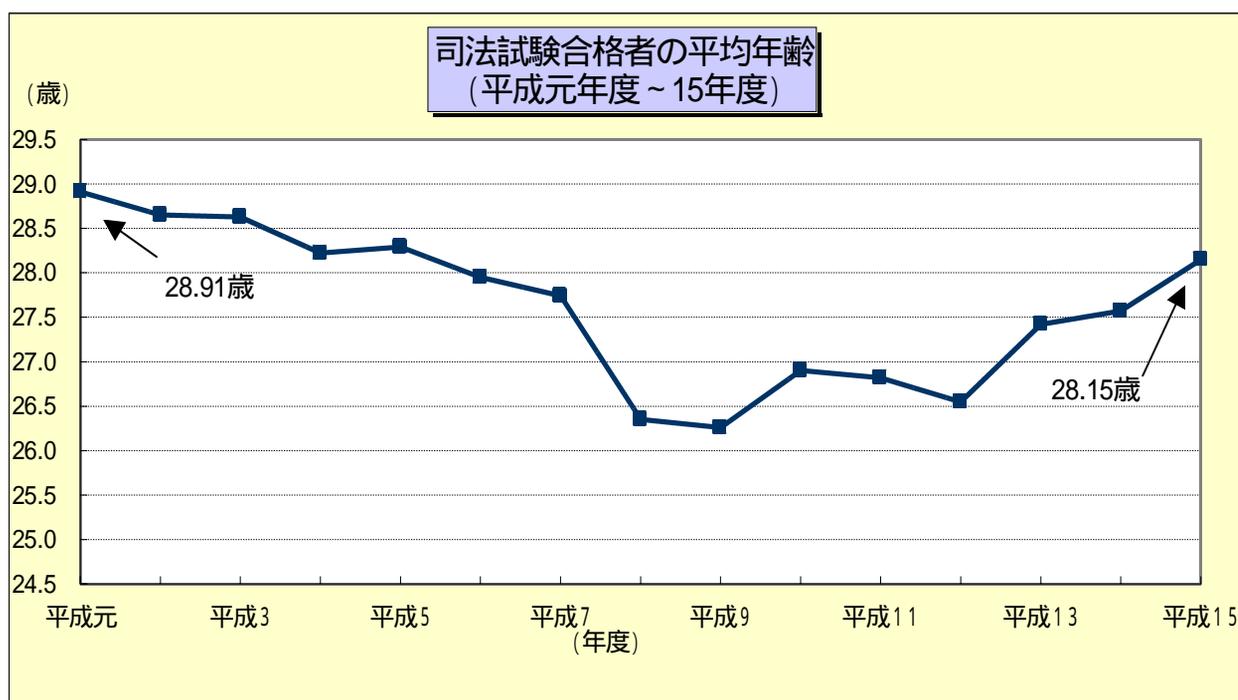
(2) 合格者の平均受験期間は **5.75年** となっています。

最長だった平成元年度の平均6.66年以上に比べると、本年度は0.91年短縮されましたが、合格枠制が実施された平成8年度以降で見ると、同12年度まで4年台で推移していた平均受験期間が、平成13年度からは5年台となっています。

3 合格者の年齢別分布状況等

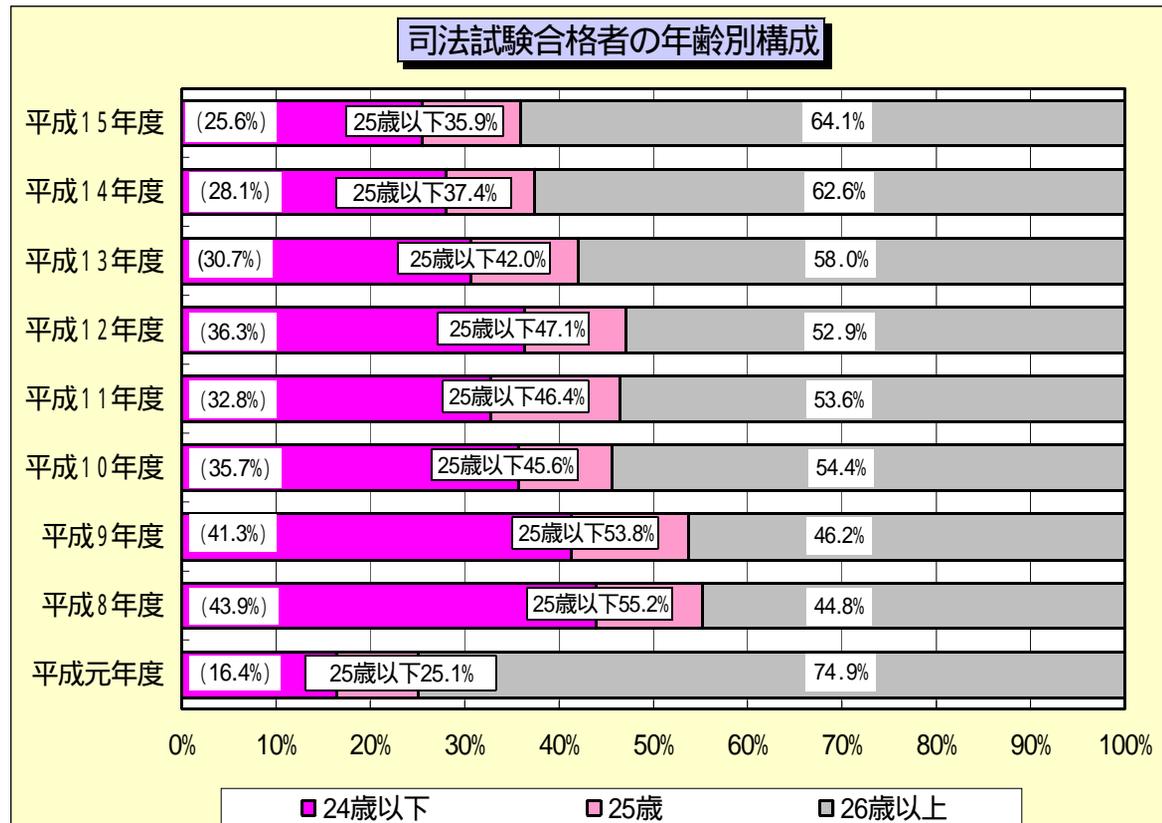
(1) 合格者の平均年齢は **28.15歳** となっています。

最も高かった平成元年度の28.91歳に比べると、本年度は0.76歳若年化しましたが、平成8年度以降で見ると、同12年度まで26歳台で推移していた平均年齢が、平成13年度から27歳台となり、本年度は初めて28歳台に達しました。



(2) **24歳以下**の合格者数は299人で、全合格者の25.6%となっています。

24歳以下の合格者は、昭和46年度に246人、46.2%を占めたのを最後に、平成元年度には83人、16.4%にまで落ち込みましたが、本年度は、平成元年度に比較し、3.6倍となっています。25歳以下の合格者は420人で、全合格者の35.9%となっています。



4 大学生の合格者数

大学生の合格者数は、274人、全合格者の23.4%となりました。

【平成14年度 284人・24.0%、平成元年度 95人・18.8%】

5 合格者の性別

男性は895人(76.5%)、女性は275人(23.5%)となりました。

【平成14年度 男性906人(76.6%)、女性277人(23.4%)】

6 論文式試験について

平成14年度から、司法試験合格者数が1,200人程度になることが見込まれたことから、合格枠制における無制限枠と制限枠の比率が「7対2」から「9対2」に変更されております。

本年度の結果については、制限枠の最下位合格者と無制限枠の最下位合格者の合格点の差は1科目当たり0.58点(平成14年度0.58点)、その順位差は745番程度(平成14年度738番程度)にとどまり、両者の成績の差は、平成3年当時の予想値(合格点差1科目当たり2点強、順位差1,000番以上)よりも小さいものとなっています。

なお、平成16年度以降に行われる論文式試験における合格者の決定方法は、合格枠制によらないこととなっています。詳細は、ホームページ上の「司法制度改革審議会意見(司法試験関係)に関する司法試験管理委員会決定について」を御覧下さい。